

2025（令和7）年度事業報告書

（2025（令和7）年4月1日～2026（令和8）年3月31日）

特定非営利活動法人越谷らるご

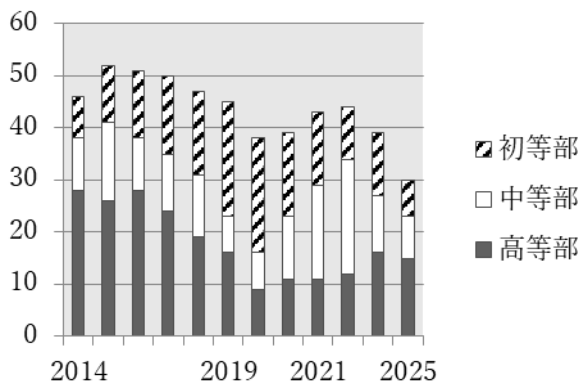
はじめに

定款に記載された目的および事業の内容を達成するため、事業計画に沿って下記の事業を通常通り実施した。

1 事業の成果

1) フリースクール事業

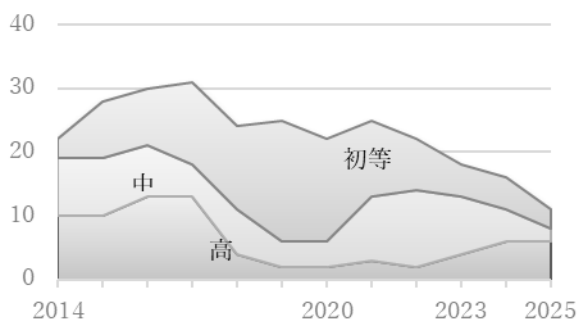
(ウ) 年度末の在籍者



2025年度は、年間を通して30数名の人数で活動することができた。全体の在籍数はこの10年でも最も少ない人数となっている。

在籍の内訳は上のグラフのとおりで、高等部以上の人数が割合として一番多くなっている。2026年度開始時は初等部の人数は3名と、少ない人数からのスタートとなる予定である。

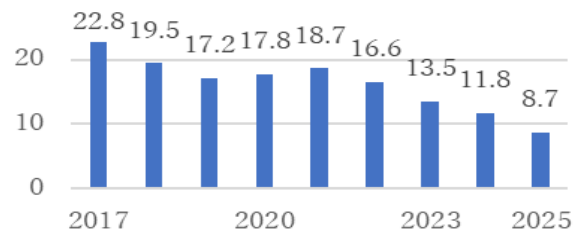
(ウ) 「いつでもコース」の人数



コースの人数については、「いつでもコース」の人数は11名で、4年連続で減少傾向にある。在

籍者の半数以上はときどきコース(月4日コース)に在籍している。本人や保護者にとってりんごの木に求めるものが、少しずつ変わってきていることを感じる。毎日通うというより、日を選んで来るメンバーが増えた。

(ウ) 1日当たりの来所状況



上のグラフの通り、日々の平均来所数は過去4年間減少傾向にある。毎日コースの人数が減ったことで、日常的にいるメンバーの人数は少なくなり、曜日やイベント内容によっても、来所人数に差が出ていた。

下半期はいつでもコースの初等部メンバーが増え、人数は少ないながらも賑やかで活気のある日が多くなった。特にひるめし食堂の日や、体育館の日などは、比較的大人数で食卓を囲んだり、運動したりできる良い機会となった。

このような、メンバーの数の減少や、曜日による人数の差、スタッフ体制などを踏まえ、2026年度中に週5日から4日へ開所日数を変更することを検討している。

フリースクールの活動は、例年通り特別活動、ひるめし食堂、お誕生日会などを実施することができた。月に1回おやつ作りの日を設け、子どもたちにリクエストを聞き、パフェ作りやお菓子作りなどをした。また夏には海に、冬はスキーに2泊3日で行くことができた。お泊り会も3回実施した。

保護者との関わり

保護者会は2回、保護者面談については夏休み、春休みを中心にオンラインでの面談を含め、実施した。イベント案内やお知らせ等はりんごの木公式LINE等にて、随時連絡をした。

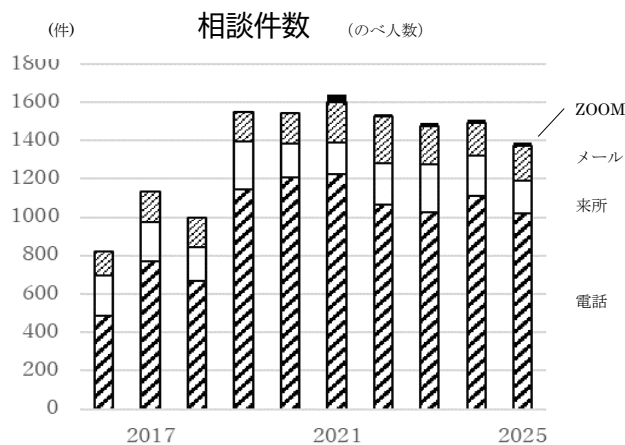
実習生等の受け入れ

- ・文教大学学生心理実習として3名受け入れた。
- ・文教大学教員学生を2名受け入れた。
- ・大妻女子大学学生2名の実習を受け入れた。

2) 子どもとの関係や対人関係に悩む人の相談に応じ、互助活動を支援する事業

「埼玉県ひきこもり相談サポートセンター」

相談活動として、埼玉県の委託事業「埼玉県ひきこもり相談サポートセンター」でひきこもりに関わる相談を週5日、年間を通して受けた。相談件数は下記のとおりであった。



※オンライン相談は2021年度から。

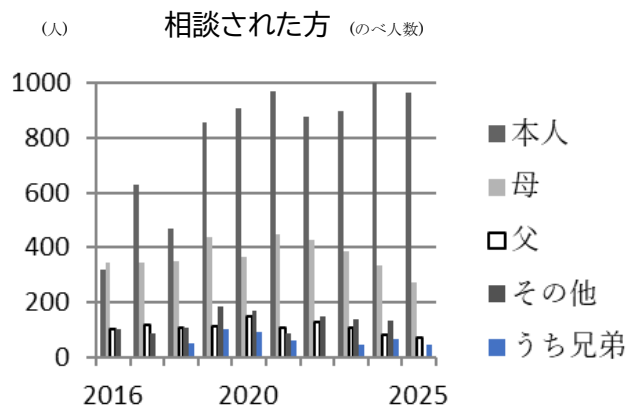
相談の傾向は大きく変わらないが、本年度はここ数年に比べ、100件ほど少なかった。左上の新規相談(199件)も同様の傾向があった。

その原因については、県内の市町村がひきこもり相談について、窓口設置、窓口の明確化、国庫補助金の活用などをこの数年で積極的に行っているため、相談先が分散し、当センター以外の利用が増えていることが考えられる。

ご本人の年齢としては、変わらず幅広くあったが、小学生年齢の相談は初めてゼロだった。



相談された方は2019年以降ご本人が圧倒的に多く、そして母親、父親と続いている。ご本人が多いのは相談において、私たちが引きこもっているご本人の気持ちを否定的にとらえず、継続しての関わりを大切にしている結果だと考えられる。



相談の目的は、これまでと同様に話を聞いてほしい、不安を聞いてほしいというものが多くあった。何か具体的なアドバイスを求める、情報を求めるというものではなく、受けとめてほしい、分かってくれほしいという傾向に変わりはない。話を聞く、受けとめるというのは、簡単なことではないが、相談員同士で協力しながら、丁寧に話を聞ける体制づくりを心掛けてきた。

相談体制については、相談員1名が退職したことにより、ギリギリのシフトでセンターを開所している。今後については、安定して開所できるように相談体制の充実を図っていく必要がある。

親の会

年度を通じて7回実施した。不登校親の会は参加者が少ない回もあったが、全体でみると毎回10名前後の参加者があった。

コル〜発達障害とともに生きる会

発達障害周辺の方（家族やご本人）を対象に、交流や情報交換の場として、年3回実施した。

ほっとりんご（20歳以上の人の居場所）

安定的に4名〜10名くらいの方が参加していた。常連の方にとって、ほっとりんごは必要な居場所になっていると感じる。また、初めて参加される方もコンスタントにいた。越谷や岩槻に現地集合しての散歩の企画や、カラオケの企画が好評だった。

また女性が安心して参加できるための「女子会」を年3回実施し、メンバーも定着した。通常ほっとりんごは参加が難しいが、女子会なら安心して参加できるとの声があった。

ご本人向けの居場所検索サイト「ひきプラ」からも引き続き利用もあった。

3) 生涯学習にかかわる事業

「越谷不登校親の会（旧わくわく体験プロジェクト）」

地域やNPO、越谷市が協働して、保護者向けに不登校について話し交流する会を3回実施した。

4) 人権擁護の推進と福祉の増進に

かかわる事業(自立援助ホーム)

今期は日常的に宿直できるスタッフが4名体制でスタートし、運営体制が安定した。特に1年目のスタッフ2名もゆらいの仕事に慣れてきて、従来のスタッフの負担も軽減されつつある。

新規入居は4月に2名あり、年間通して定員上限の6名が在籍した。入居者には大きな変化はなかったが、落ち着いて日々を過ごしていたように見受けられた。

研修や会議については可能な限り参加できた。

前期から依頼しているスーパーバイザーによる内部研修を年間通して5回実施し、有意義な時間をもてた。

運営委員会は委員の不足等により、開催が困難となったため休会とし、理事会がその役割を当面代行した。

退居者については、電話やメール、来訪や訪問などを通して、年間340件の支援を実施した。前年度の退去者についての伴走支援を実施する等、個々に応じてきめ細かく実施するように努めた。

5) 活動のなかで得られた子どもの教育と生涯学習についての意見を広めるための事業(広報事業)

2025年8月にホームページをリニューアルした。より越谷らるごらしさの伝わる、あたたかい雰囲気のもの完成し、周囲からも好評を得ている。

「越谷らるご通信」は、月1回紙ベースとPDFで発行し、活動の案内や報告等を行った。

また活動報告や告知はホームページでも実施した。夏には県主催の不登校セミナーにブース参加し、必要な方に情報提供した。

外部委員・会議等の参加（オンライン含む）

- ・埼玉県不登校児童生徒支援のための官民連携会議
- ・越谷市保健所ひきこもり連絡会
- ・吉川市若者支援に関する意見交換会
- ・子ども夢未来フェスティバル実行委員会
- ・埼玉県青少年課若者支援協議会実務者会議
- ・ひきこもり民間支援団体等交流会
- ・越谷市学校連携会議
- ・埼玉県ひきこもり支援連絡会議

講師活動

- ・越谷市保健所市民教室
- ・熊谷市子ども課講演会
- ・ネットワーク SAITAMA21 運動地域セミナー

2 事業の実施にかかわる事項

特定非営利活動にかかわる事業

事業名	事業内容	実施場所	支出額
1) フリースクール事業	月～金曜日 10:00～17:00 (木曜日は 12:00～17:00) に子どもの居場所、育ちの場を開き、活動の支援や相談、見学・体験入会などを行った。 2025年度は 34 名でスタートし、4 名が新入会し、10 名が年度中に退会した。 (2026年3月末の在籍：31名。)	本法人の事業所他	8,606 (千円) 以下同様
2) 子どもとの関係や対人関係に悩む人の相談に応じ、互助活動を支援する事業	親の会 年 7 回予定通り実施した (のべ参加者数：71 名)。	本法人の事業所	12,712
	埼玉県ひきこもり相談サポートセンター (埼玉県委託事業) 月・水～土曜日 10:00～18:00 にひきこもり等に関する相談を電話・来所・メール、オンラインにて受けた(のべ相談者数：1,392 名)。	本法人の事業所	
	20 歳以上の居場所 ほっとりんご(同上委託事業) 20 歳以上の人の居場所として、女子会 3 回を含む 24 回を予定通り開催した。 (のべ参加者数：98 名)	本法人の事業所	
	コル～発達障害とともに生きる会 年 3 回、互助的な会を開催した(のべ参加者数：18 名)。	本法人の事業所	
3) 生涯学習にかかわる事業	行政 (越谷市) と地域との協働事業「越谷不登校親の会」 不登校の体験談を聞く会など、保護者向けの会を 3 回実施し、年度末に報告書を作成した(のべ参加者数：73 名 ※2024…69 名 2023…70 名、2022…58 名)	中央市民会館	0
4) 人権擁護の推進と福祉の増進に関わる事業	自立援助ホームの活動 家庭での生活に困難を抱える若者の自立支援を行った。年度当初 2 名の入居があり、年度中の退居はなく定員の 6 名が年度を通して入居していた。退居者支援として、退居者の来訪、相談、訪問など(340 件)を行った。	本法人の事業所	41,115
5) 活動の中で得られた子どもの教育と生涯学習についての意見を広めるための事業	『越谷らるご通信』の発行 毎月、会員及び関心をもつ方を対象に、11 回メールによる発信を含め、計 2600 部ほどを発行し、活動で得られた知見を社会に発信した。	本法人の事業所	174
	インターネットによる発信 不特定多数の方を対象に、ホームページ、フェイスブックによる発信・更新および不正乗っ取りを受けてのセキュリティ強化を行った。	本法人の事業所	
	その他 ・行政等が主催する 8 つの会議に参加した (書面開催含む)。 ・行政機関等で講演会、セミナーの講師等を務めた。	本法人の事業所の他依頼先	
管理部門	法人事務、運営管理等	本法人事業所	2,114

3 運営管理に関する事項

- ・2026年3月末現在、正会員 53 名(54 名)、賛助会員 41 名(46 名)であった。(括弧内は 2025 年 3 月)
- ・情報管理が徹底されるよう、毎月事務局会議で個人情報管理状況を確認した。
- ・広く支援を受けるための取り組みとして、「フリースクールりんごの木子どもサポート基金 (以下、サポート基金)」「若者自立支援基金」、「一般寄付」の 3 種の寄付メニューを継続した。
サポート基金については、オンライン寄付サイト Give One を活用し、様々な方から継続して支援をいただき、助成金として受け取ることができた。
- ・研修・交流の場として、性暴力危機管理委員会を 1 度開催した。
- ・当該年度の譲渡資産、資産の貸付、役務の提供に関しては該当なし。
- ・給与を得た職員の総数 13 名。左記職員に対する給与総額 35,459,458 円